

小カブにおける防虫ネット使用の効果と実用性確認試験



ハウス内設置状況



収穫時の被覆状況(べたがけ)



6月20日の様子



処理区(収穫時調査)



無処理区(収穫時調査)



焼け症状

試験目的

小カブにおける防虫ネット使用の効果と実用性確認試験

試験作物及び品種

白カブ(福小町)

試験資材及び数量(規格)

スーパーソフトネット(160cm×20m)

慣行資材

トンネル被膜なし

栽培方法

播種日 5月21日 **収穫日** 7月11日(生育日数52日)
【栽植密度】 畝幅：25cm 株間：10cm

試験区面積

1.5×10m=15㎡

※害虫駆除：3回
 ※根こぶ病薬剤 ネビジン使用

試験方法

- 雨よけハウス内にスーパーソフトネットをトンネル状に被覆した。
- 除草作業(1回)以外はトンネルを密閉して管理した。
- 防除はトンネル上から散布、かん水はスミスンスイ(ハウス中央1本)で実施した。
- カブがトンネルに接触するようになったため、6月下旬以降はポールを外してべたがけ状態とした。
- 生育調査、葉色測定、収穫調査(各10株)、被害調査(各30株)、温度測定を行った。

調査結果

(1)生育、収穫調査(10株調査、反復なし)

	6/20 草丈 (cm)	6/30 葉色 (SPAD)	7/11 根径 (mm) 根長 (mm)		球形指数 (根長/根径)	株重 (g/株)	葉色 (SPAD)
処理区	25.9	32.7	66	34	0.52	172	35.1
無処理区	25.6	32.3	67	41	0.61	218	41.6

(2)被害状況調査(ほ場3カ所より10点ずつ調査)

	コナガ等 被害株率(%)	キスジノミハムシ 被害根率(%)	葉焼け等 被害葉率(%)
処理区	13	0	13
無処理区	100	0	0

(3)温度調査(6月1日～7月10日)

	期間積算気温 (40日間)	最高気温	平均気温	最低気温
処理区	741	39.9	18.5	5.5
無処理区	686	40.4	17.6	3.6

※「おんどり」使用、地表より10cm程度の高さにセンサーを設置

結果と考察

- 試験期間は気温が概ね平年並み、日照時間(平年比71%)は少なく推移したが、収穫調査前の6日間は高温となり、日照時間も平年より多かった(標茶アメダス)。
- ハウス内(無処理区)に比べ、ネット内(処理区)は気温が1℃程度高く推移した。
- 初期生育から6月下旬までの生育に差は見られなかった。
- 収穫調査では、処理区で根長と株重が無処理区に劣った。
- 処理区は、葉色が淡く、茎葉が軟弱傾向で扱いづかった。また、ネットに接触した葉の一部に高温障害が発生する被害が見られた。
- 被膜処理によって、コナガの被害はほとんど見られず、飛来害虫に対する効果は高い。
- キスジノミハムシの被害は両区とも無かったため、効果は判然としなかった。
- 小カブの雨よけハウス栽培におけるスーパーソフトネット被膜栽培は、害虫防除の面では効果が高いが、収穫時の品質に問題があり、実用性は低い。

その他

- 処理区で収量が劣ったのは、かん水がネットで遮られ、充分にかかっていないためと思われる(頭上かん水では解決可能かも)。
- 露地栽培では、高温障害や軟弱傾向がある程度緩和されると考えられる。
- 当試験は、日照時間が生育前半で少なく、収穫前で多い点で、処理に不利な条件だった。